



新たな発見 ウンキュウ 捕獲！

5月24日、岩舟町小野寺のため池で、**奇妙なカメ**を捕獲した。クサガメの特徴である背甲の3本のキールが見られるのでクサガメかと思ったが、甲羅の形が全体的に丸い感じがする。しかも、首に独特の模様がなく、腹側にはオレンジ色の模様まである。かといって、ミシシッピアカミミガメなどの外来種とは明らかに違っている。**こいつは一体何者？**

そこで、日本のカメ研究の第一人者である矢部隆先生（愛知学泉大学教授）に写真を送って問い合わせたところ、**衝撃的な事実**が判明した。6月5日付けのメールによると、「実物を見ないとなかなか確実なことは言えませんが、これはニホンイシガメやクサガメの純系な種ではなく、種間交雑の個体で、おそらく**クサガメとニホンイシガメの交雑個体です！**」

通常、種間交雑個体は一代限りで繁殖能力を持たないが、カメ類は例外で、その**子孫も繁殖能力を持つ**ことが多い事例で知られている。特に、クサガメとニホンイシガメのハイブリッドは「**ウンキュウ**」と呼ばれている。（なぜ「ウンキュウ」というのか、漢字で書くとしたらどんな字なのかは不明である。）

ところで、このウンキュウがいるということは、一方の親である**ニホンイシガメ**も近くに生息している可能性がある。これまで、栃木県にはニホンイシガメの確実な生息記録はなく、「幻のカメ」なのではと囁かれてきたが、意外なところから、ニホンイシガメが見つかる可能性が出てきた。栃木県の「レッドデータブック」では、カメについては**情報不足**とされている。謎の多い**カメを巡る壮大なパズル**を前に、重要な**ワンピース**をまた一つ手に入れた、といっても過言ではないだろう。



